

令和4年度 日本大学文理学部個人研究費 研究実績報告書

所属・資格 教育学科・特任教授

申請者氏名 佐藤 晴雄

研究課題		地域学校協働活動とコミュニティ・スクールに関する研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	文部科学省が推進を図っている学校と地域が協働・連携して実施する地域学校協働活動の実態と成果を特にコミュニティ・スクールとの関係から探ることを目的とする。地域学校協働活動は、協議には放課後子ども教室、地域未来塾など、文部科学省補助事業を意味し、広義にはそのた各地で任意に展開される地域活動、家庭教育支援、学校支援ボランティア活動なども含むことになる。これら活動をコーディネートする地域学校協働本部の設置も進展し、コミュニティ・スクールとの一体的運用が文部科学省によって奨励されているところである。そこで、コミュニティ・スクールを導入している福岡県春日市と岡山県高梁市等を事例として、その実態を踏まえた成果検証を試みるものである。
	研究の結果	上記研究目的に迫るため、岡山県高梁市・備前中央町及び福岡県春日市、三鷹市の教育委員会を訪問し、聴き取り調査を行うと共に資料提供を受けた。当初予定していた大阪市訪問は行わなかった。高梁市教育委員会では、安田隆人参事(元小学校長)、福原洋子参与(元中学校長)から同市のコミュニティ・スクールの成果と地域学校協働活動の実態に関する講話を受け、それぞれの成果と課題について聴き取った。また、春日市役所の西主任(前教育委員会職員)からは同市の教育改革の現状を聴き取り、さらに同市立春日南中学校を訪問し、山崎校長から学校運営協議会の成果例を聴き取ることができた。特に、地域学校協働活動の当たる「なんちゅうカレッジ」(地域が支える学校外の教育活動)の再興を進めているなどの実情が理解できた。三鷹市教育委員会では貝ノ瀬滋教育長と面談し、また、同市立第四小学校を訪問し、コーディネーターから地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの関係づけの効果について情報を得ることができた。
	研究の考察・反省	高梁市ではコミュニティ・スクール第一号の高橋中学校では、コミュニティ・スクール導入校に位置づけられたことから教職員の理解と関心が深まるなどの成果が見られたが、同市内の他校のコミュニティ・スクールには地域環境の影響もあり、温度差があることが明らかになった。春日市では、学校だけでは把握困難な課題、特に不登校生徒の家庭の背景が学校運営協議会委員の情報から明らかになり、その対応が協議を通して迅速に行われたなどの成果が指摘された。三鷹市の第四小学校ではコーディネーターの役割が地域協働の鍵になっている実態が得られた。 以上から、コミュニティ・スクールには学校運営協議会の協議による効果と、外部に地域協働に取り組む学校であることを周知することによって得られる宣言効果があると考察したところである。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本学校改善学会 2023 岐阜大会 「コミュニティ・スクールの現在と展望」2023年1月7日/岐阜大学サテライトキャンパス <p>研究成果物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人づくりと地域づくりの好循環ーコミュニティ・スクールによる地域づくり」地域活性化センター『地域づくり』400号、2022.10.1、地域活性化センター。 ・「コミュニティ・スクールの良さを生かす」『小学校時報』72巻11号、2022.11.1、全国小学校長連合会。 ・「コミュニティ・スクール導入で学校はどう変わるか」『季刊 理想』146号、2022.12.1、理想教育財団。 ・「教育課題 Work techniqueー コミュニティ・スクールの運営」『エデュカスフィア(全国公立学校教頭会 会報)』9号、2023.2.1、全国公立学校教頭会。 ・「地域とともにある学校づくりー連載第12回 コミュニティ・スクールのゆくえー」『教職研修』607号、2023.3.1、教育開発研究所。 	